

東北森林管理局

指導普及課だより

第64号(新年号)

発行日 平成24年1月12日

郵便番号 010-8550

電話番号 050-3160-6456

住所 秋田市中通5丁目9-16



『故きを温ねて新しきを知る』



計画部長 合田 和弘

まずは、新年のクイズから。「昭和20年代から今日に至るまで、森林管理局で毎年開催され、職員が誰でも発表でき、参加賞までもらえる恒例行事は何でしょうか？」

答は「森林・林業技術交流発表会（業務研究発表会）」です・・・。

私が森林官時代の1985年に秋田局で発表した業務研究発表会の論文集を見ると、第32回発表会、また同年の青森局の論文集には第38回発表会と書かれている。私の生まれる前から発表会が開催されており、今日では60年以上もの歴史がある。

当時は、発表者は職員だけであったが、両局とも数十課題の発表があった。とても賑やかで活気があった記憶がある。「各署最低1課題は発表すること。若手の森林官や係長は率先して取り組むこと。」と発破をかけられたものだ。

私は前任の森林官から引き継いで、地拵えの省力化、下刈回数削減等の造林コストの低減を目的に1967年に設定された除草剤散布地拵えと林地肥培の試験地の生長追跡調査を行い発表した。この試験地は、1967年と1970年に先人が研究発表を行っていたためにデータが残っていた。内容については今読み返すと汗顔の至りであるが、講評には「先輩の調査研究の追跡調査は、息の長い林業では大切。施業の効果について、先輩から後輩に引き継ぐことを今後もしっかりやってほしい。」と記録されている。翌年は作業員の班長の発表に、また署長時代は製品事業所主任の発表と一緒に取り組んだ。

当時から27年が経過して今日まで発表会は続いている。森林管理局における最高の伝統行事だと思う。この間に、発表会の名称が変わり、発表内容が「安全、生産販売、経営改善等を含む国有林野事業の業務全般」から「森林とのふれあい活動や指導普及活動を含む森林・林業技術全般」に変わり、発表者も「職員のオープン参加（内部に開かれたもの）」から「森林・林業関係者にとどまらず広く学生、ボランティアなど一般市民のオープン参加（外部にも開かれたもの）」にと変貌を遂げた。

このように歴史と伝統のある森林・林業技術交流発表会であるが、昔に比べて若手職員の発表が少ないようだ。日常の業務で取り組んでいる身近なことについて、写真を撮りながら、データ整理を行って、気軽に発表してもらえればと思う。

もし、発表の題材が見あたらないならば、過去に発表会等で取り上げられた箇所の追跡調査を行ってみたらどうだろうか。もちろん、それ以外の試験地、展示林、施業指標林等でも構わない。要は、昔のデータが残っている箇所である。

最近、数署に依頼して、過去に発表会で報告された複層林試験地を見に行ってもらった。共通して言えることは、帯状に強度に複層伐を実施した箇所は下層木の生長が良いが、点状・群状に伐採した箇所は下層木の生長が悪いことだ。昨年策定された森林・林業基本計画でも、引き続き育成単層林から育成複層林への誘導を積極的に進めようとしている中で、複層林誘導手法の成否を総括することも重要かと思う。

故きを温ねて新しきを知る・・・。先輩が作った試験地を調査し、今日的視点から分析することも意義深いことではなかろうか。

希少な動植物を守る！

～保護林、「緑の回廊」の設定とその保全管理～

1992年の生物多様性条約の締結を契機に「生物多様性」という言葉が頻繁に使われるようになりました。

平成22年8月に着任しました私（保護林係：有馬）は、その言葉とイメージだけは持っていたものの、具体的な内容や取組については把握しておらず（こんな専門的な分野に飛び込んでしまって大丈夫だろうか？）との不安を抱いていました。

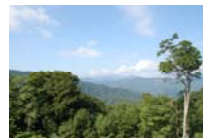
そこで、「生物多様性」の概要とその重要性、そしてそれらを保護するための取組についてご紹介します。

まず、「生物多様性」とは、以下の3つの階層の多様性から構成されています。

生物多様性

生態系の多様性

干潟、サンゴ礁、自然林や里山林、人工林などの森林、湿原、大小の河川など、いろいろなタイプの自然がある状況



種(種間)の多様性

いろいろな動物・植物が生息・生育しているという状況



遺伝子(種内)の多様性

同じ動物・植物でも、遺伝子レベルで差異がある状況



ヒトの種内多様性ということで、指導普及課の面々です。

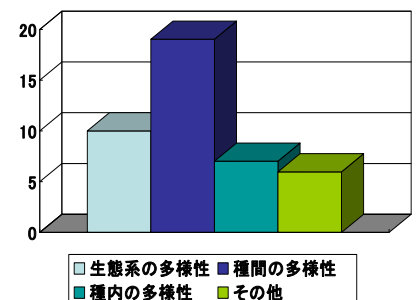
今年度、経営係長等を対象とした「実践型森林施業等研修」において、「“生物多様性”というキーワードに対し、どのようなイメージを連想しますか？」とのアンケートを実施しました。

その結果、「生物多様性=いろいろな動物・植物が存在すること(種の多様性)」との回答が多く、次いで生態系の多様性、遺伝子の多様性と続きました。

回答者数：24名

記述回答方式とし各多様性に関するキーワードを抽出。そのカウント数を示す。

(1つの記述にそれぞれの多様性に関するキーワードが確認できれば、それぞれに1ポイント加算)

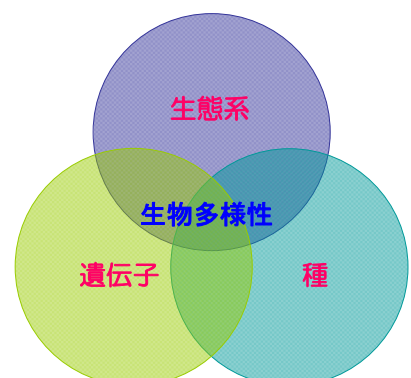


では、なぜ生物多様性が大切なのでしょうか。

私たち人間は、肉や魚、野菜を食べ、植物が生産する酸素を吸って呼吸をします。

当たり前のことですが、あまりにも当たり前すぎて、その大切さを忘れてしまうことはないでしょうか？

自然界の中でも、支え合いの関係はいたるところに存在しますが、その関係こそが「生物多様性」であり、その関係が崩れれば、私たち人間にも大きな影響が生じます。



国有林では、生物多様性を保全するため、希少種を含め多様な野生生物が生息・生育する森林を保護林に設定するとともに、保護林を繋ぐ森林を緑の回廊に設定してその保護に努めています。



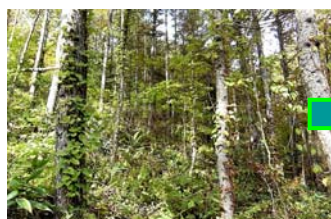
保護林、「緑の回廊」モニタリング調査



ボランティア等と連携した植生復元活動



森林保護員（グリーン・サポート・スタッフ）による
巡視、啓発活動



針広混交林へ誘導するための人工林の「抜伐り」

まだまだ寒い時期が続きますが、数ヶ月後には新たな命が誕生します。今年「**生物多様性**」をより意識し現場に飛び込んでみてはいかがでしょうか。新たな発見ができるかもしれませんよ。



森林インストラクター資格試験に合格されたお二人から一言！



森吉山登山の様子（中央が本人）

安藤 菜穂さん（宮城北部森林管理署 鮎川森林官）

森林の大切さや林業の意義を人に伝えられる技術を身につけたいと思い、資格取得を目指しました。勉強を始めると、求められる技能の多さに驚きました。動植物や林業の知識はもちろん、野外ゲームの進め方や話し方の技術、野外での安全確保等々。いずれも、実地で経験を積まなければならないことばかりです。

上司や先輩方に応援していただき、なんとか資格を得ることが出来ました。今やっとスタートラインに立ったと思います。今度は一人前のインストラクターを目指し、森林が好きだという気持ちを忘れず、経験を重ねて精進したいと思います。

浅原 未来さん（庄内森林管理署 管理係長）

この度の森林インストラクター試験に通過し、森林インストラクターの一員となったことを嬉しく思います。受験にあたってのアドバイスをくださった先輩方には、この場を借りましてお礼申し上げます。

日頃から何かを伝えることの難しさを痛感している身としては、資格をいただいたからといって、今すぐに森林インストラクターとして胸を張って活動できるものとは思いません。

しかしせっかくフィールドをもてる職場で働くからには、日常業務の中で意識して目を養い、また、様々な知識やそれらを伝える技術を身につけながら、森林を訪れる人に何かを発信し、投げかけていけるよう経験を積み重ねていきたいです。



登山中の一コマ

平成23年度森林・林業技術交流発表会 今年計29課題を予定

～特別講演は森林総合研究所による「津波による海岸林被害からの復興に向けて」～

平成23年度森林・林業技術交流発表会を2月9日(木)、10日(金)の両日、東北森林管理局2階大会議室で開催します。

中学・高校・大学から8課題、署等から12課題、地方公共団体から6課題、その他森林組合等から3課題の計29課題を予定。

特別発表は4課題で、馬場目川上流部にブナを植える会、秋田県森林技術センター、森林総合研究所東北支所による発表、そして矢部東北森林管理局長による「東北森林管理局における森林鉄道の消長について」の発表があります。



今年度は、昨年3月11日に発生した東日本大震災からの復旧・復興関連や「森林・林業再生プラン」に関わる民・国連携の取組についての発表が複数あることが特徴として挙げられます。

寒さや雪で厳しい季節ではありますが、多数のご来場をお待ちしております。

←昨年の森林・林業技術交流発表会より

平成23年度 東北森林管理局 技術開発委員会を開催

平成23年12月16日(金)、東北森林管理局第3会議室において平成23年度技術開発委員会を開催しました。本委員会は、計画部長を委員長とし、学識経験者や試験研究機関の職員、県の普及指導の職員、地域林業関係者等の外部委員8名を含む16名の委員で構成されており、局署が取り組んでいる技術開発の計画、目標、評価、成果の指導普及方法等について広く意見等を聴くため、毎年開催しています。

今年度は、局署が取り組んでいる12課題の技術開発課題のうち、5課題の完了報告と1課題の中間報告のほか、その他の課題の経過について報告し、また、来年度から取り組む新規課題5課題(うち1課題は継続)を提案し了承されました。

完了報告は森林技術センターの岡浦森林技術専門官及び米代東部森林管理署の濱田森林技術専門官が、中間報告は岩手北部森林管理署の松尾技術専門官が行いました。

それぞれの課題に、委員の先生方から目的、試験方法、考え方等について質疑が出され、たくさんのお意見をいただきました。今後の技術開発の発展に反映させていきたいと思っております。

今回報告された課題は以下のとおりです。

○完了報告課題

- ・伐採方法別の複層林誘導技術の開発(森林技術センター)
- ・スギ若齢人工林のヒバ混交林への誘導について(森林技術センター)
- ・ヒバ人工林施業の検証(森林技術センター)
- ・間伐材等を利用した森林土工法(森林技術センター)
- ・列状間伐等林分の混交化に関する施業体系の検討(米代東部署)

○中間報告課題

- ・天然更新を活用した牧草地の森林化について(岩手北部署)

○新規課題

- ・多雪寒冷地及び海岸林の造成におけるコンテナ苗の改良と低コスト育林手法の開発(岩手北部署・三陸北部署)
- ・空中取り木による青森ヒバ苗木生産の試み(森林技術センター)
- ・天然力活用を踏まえた更新誘導基準の開発(計画課、指導普及課)
- ・航空レーザ計測技術を活用した森林蓄積の把握について(計画課)
- ・列状間伐等林分の混交化に関する検討(米代東部署)



技術開発委員会で報告する
松尾技術専門官